

科目区分：中等教育コース（家政教育専攻）

科目名：被服構成学及び実習2（2020）

2020年度「被服構成学及び実習2」授業評価・授業研究報告

家政教育・眞鍋 郁代

1. 授業の基本情報・概要

本授業は学校教育教員養成課程中等教育コース家政教育専攻における専門科目である。被服構成法の理論と基礎的技法を習得し、最終的には既製服への理解を深め、消費者としての視点を養うことを目的としている。家庭科免許取得や卒業必修科目には指定していないが、中等・家政に所属する学生のほとんど、被服構成学及び実習1の既修者で、さらに衣服について知識と技能を深めたい小サブや他専修の学生が例年履修している。

本年度の受講学生は、2回生5名（家政3名、小サブ2名）、3回生2名（家政2名）、4回生1名（生環1名）の合計8名である。

シャツブラウスの製作実習を通して、被服構成学の理論と技法を習得することで、自身の衣生活を振り返り、充実させることができる力をつけ、また、家庭科教員として、被服製作の指導を、自信をもってできるようにすることや、実習を通して、衣生活に関わる今日的課題や環境に関連する課題について理解を深める姿勢を養う。

<授業スケジュール>

第1回：オリエンテーション（注意事項、道具の説明）

第2回：身頃原型の製図

第3回：「ブラウス」（女性用）「シャツ」（男性用）の身頃型紙製図

第4回：「ブラウス」「シャツ」袖、衿、見返しの型紙製図、ヨーク（男性用）型紙作製

第5回：型紙裁断

第6回：布へののしりし付け

第7回：布の裁断

第8回：接着芯の裁断（見返し、表襟）、接着芯の貼付（見返し、表襟）

第9回：ダーツ縫い（女性用）、タック・ヨーク縫い（男性用）

第10回：見返し端ミシン、ダーツ縫い（女性用）・ヨーク縫い（男性用）

第11回：肩縫い

第12回：脇縫い

第13回：襟作り（1）表襟、裏衿、バイアス布の裁断

第14回：襟作り（2）表襟、裏衿の仮縫い

第15回：襟作り（3）表襟、裏衿の縫製

第16回：襟付け（1）仮縫い

第17回：襟付け（2）ミシン縫い、縫いしろの切り込み

第18回：襟付け（3）縫いしろのバイアステープ処理

第19回：袖作り（1）短冊、持ち出し、カフスの裁断

第20回：袖作り（2）短冊、持ち出し、カフスの縫製

第21回：袖作り（3）袖底の縫製

第22回：袖付け（1）袖と身頃の仮縫い

第23回：袖付け（2）袖と身頃の縫製

第24回：袖付け（3）縫いしろの始末

第25回：裾の始末、ボタンホール作り、ボタン付け、仕上げ

第26回：製作を通して考える衣生活の今日的課題（1）環境に配慮した製作教材の考案

第27回：製作を通して考える衣生活の今日的課題（2）環境に配慮した製作教材の製作

第28回：製作を通して考える衣生活の今日的課題（3）環境に配慮した製作品の評価

第29回：製作作品の総合的評価

第30回：実技試験

2. 授業評価・授業研究の内容

調査項目を以下に述べる。またそれぞれの質問項目における回答人数も（ ）内に併記した。回答を得た授業アンケートは受講学生8名分である。

A あなた自身についてお聞きします。

(1) どのくらい出席しましたか。

①全部（6名） ②1,2回欠席（2名）

(2) 授業時間外の学習時間は、1回の授業ごとにどれくらい行いましたか。

①2時間以上（1名）③30分～1時間（4名）

④30分未満（3名）

(3) 意欲的に取り組みましたか。

①十分に取り組んだ（6名）

②かなり取り組んだ（2名）

(4) この授業を履修した理由

- ①授業名で(2名) ③シラバスの内容(1名)
- ④時間割の都合(1名) ⑤その他〔自由記述〕
「楽しそうだったから」(2名)
- 「学担の先生に勧められたから」(1名)
- 「教採(実技試験)対策のため」(1名)

B 授業についてお聞きします。

(1) 先生の話し方(言葉・声の調子など)は適切でしたか。

- ①そう思う(6名)
- ②どちらかといえばそう思う(2名)

(2) 板書やパワーポイントの字や図の表現は適切でしたか。

- ①そう思う(6名)
- ②どちらかといえばそう思う(2名)

(3) 先生は学生が質問や意見を述べられるように配慮しましたか。

- ①そう思う(6名)
- ②どちらかといえばそう思う(2名)

(4) 配布資料,教科書などの教材は適切でしたか。

- ①そう思う(7名)
- ②どちらかといえばそう思う(1名)

(5) 授業の内容は興味関心が持てるものでしたか。

- ①そう思う(7名)
- ②どちらかといえばそう思う(1名)

(6) 授業の内容は理解できるものでしたか。

- ①そう思う(6名)
- ②どちらかといえばそう思う(2名)

(7) この授業を全体的にみたときに,どの程度満足していますか

- ①満足している(7名)
 - ②どちらかといえば満足している(1名)
- (自由記述回答) ※主なものとして以下のよう
なコメントがみられた。

【最も印象に残っている内容】

- ボタンホール作製作業について(3名)
「印象的だった,一気にお店で販売されているもの
のようになった,2回やり直すのに1時間以上もかかっ
てしまった。」等
- 袖づくりに関すること(3名)
「とにかくむずかしかった」
- 衣服作りそのものについて(3名)
「こんなにも大変,初めて作ってとても達成感があ
った,服の作られ方がよくわかった」

【初めて知ったこと】

- ブラウスづくりそのもの(3名)

「学んだこと全て,ブラウスの作り方」

○「ボタンホールにつくられ方」(1名)

○「短冊あきの袖口づくり」(2名)

【もっと知りたかったこと】

○ブラウスのさらなる応用について(3名)

「袖のボリュームの出し方,デザインの工夫の仕方,ちがったデザインのブラウス作り」

3. 【結果】授業アンケートより

本授業は週1回,2時限連続で開講しているため,1回欠席すると,180分ぶんの遅れが生じ,自力で取り戻さないと締切の作品提出に間に合わなくなる。今年度についても受講学生らはその点よく理解しており,遅刻や欠席をする者はほとんどいなかった。

受講の動機は様々で,被服製作に自信がない学生が学担教員の勧めで受講を決めたり,教採実技対策としての目的を持って,などは例年と似た傾向だが,「楽しそうだから」という受講動機は,従来では見られない理由だった。授業内容の理解や関心,満足感について,受講学生8名中6~7名が持つことができたとの回答を得ており,教室の使用一つにも制限のある状況の中,例年に近い,充実した授業内容とすることができたと自負している。

4. コロナ禍における被服製作実習の実施について

今年度の本授業の実施について,苦慮に苦慮を重ねたのは,「コロナ禍の状況に左右される,先の見えない授業運営」であるといえた。新型コロナ感染対策を含め,今年度本授業で実施した対応や苦慮した点は以下の通りである。

- ・受講学生に対する検温実施,終了後の机上・使用用具のアルコール清掃の徹底指導
- ・受講学生8名を3つのクラスに分散した補講の実施。(本授業が2時限続きであることと,前後授業との兼ね合いへの配慮により,補講時間の確保が例年よりはるかに困難だった。)
- ・従来,受講学生には授業時間外にも実習室の使用許可を与え,製作スケジュールの管理を含めて学生の自主性に任せてきたが,今年度は学生の安全確保のため利用制限されていたため,作業が授業時間内におさめるよう,授業者による時間管理を徹底せざるを得なかった。学生の気がつかないところで,実習時間の管理を学ぶ機会が失われてしまっていることに忸怩たる思いが残った。